

経済情報：2023年10-12月期の 実質GDP成長率（1次速報値）

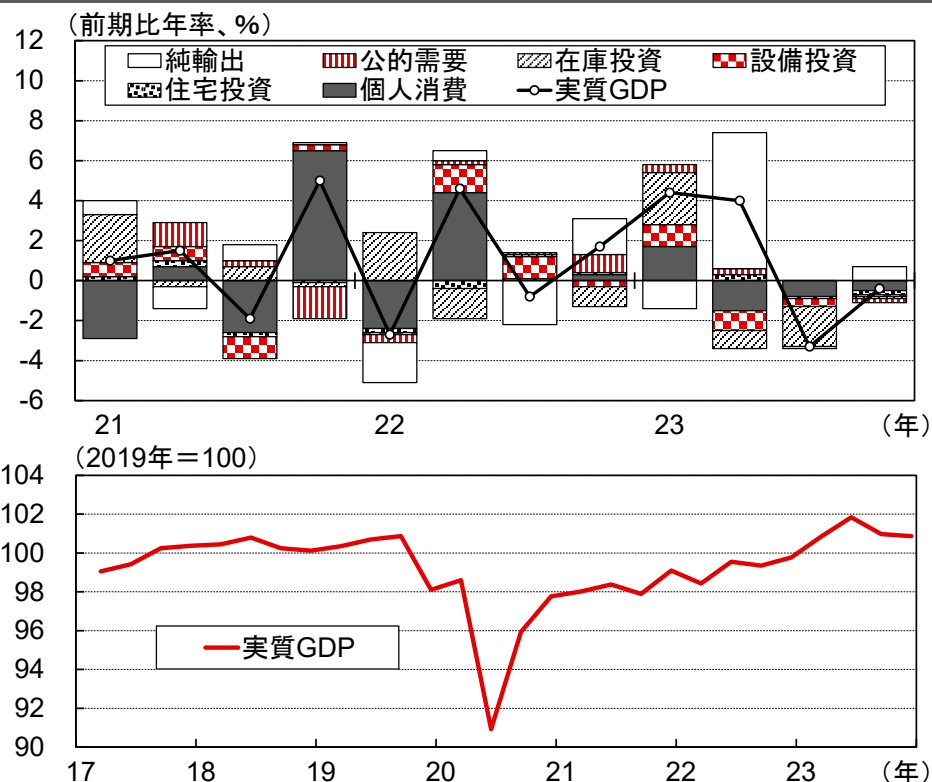
2024年2月15日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

1. 要旨

- 2023年10-12月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率▲0.4%と2四半期連続で減少。個人消費や設備投資が3四半期連続で減少しており、物価高や人手不足が重石となり、景気は踊り場的な状態にある。
- 先行き、中期的には家計の実質賃金改善や先送りされている設備投資の顕在化に支えられ、景気は回復軌道に復するとみられるものの、今年の1-3月期は能登半島地震や一部自動車メーカーの生産停止、サービス輸出増加の反動により3四半期連続のマイナス成長となるリスクがある。

実質GDPと最終需要の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

四半期別実質GDPの推移(計数)

	(前期比年率、%)			
	2023年 4-6月期	2023年 7-9月期	10-12月期(1次速報値)	(寄与度)
実質GDP	4.0	▲ 3.3	▲ 0.4	—
民間需要	▲ 3.9	▲ 4.2	▲ 1.1	(▲ 0.8)
個人消費	▲ 2.7	▲ 1.4	▲ 0.9	(▲ 0.5)
住宅投資	7.2	▲ 2.4	▲ 4.0	(▲ 0.2)
設備投資	▲ 5.5	▲ 2.4	▲ 0.3	(▲ 0.1)
在庫投資	(▲ 0.9)	(▲ 2.0)	—	(▲ 0.1)
公的需要	1.0	0.1	▲ 0.9	(▲ 0.2)
政府消費	▲ 0.4	1.1	▲ 0.5	(▲ 0.1)
公共投資	9.1	▲ 3.9	▲ 2.8	(▲ 0.1)
純輸出	(6.8)	(▲ 0.1)	—	(0.7)
輸出	16.2	3.8	11.0	(2.3)
輸入	▲ 13.5	4.0	7.0	(▲ 1.7)
GDPデフレーター(前期比)	1.5	0.8	0.4	—
名目GDP	10.4	▲ 0.2	1.2	—

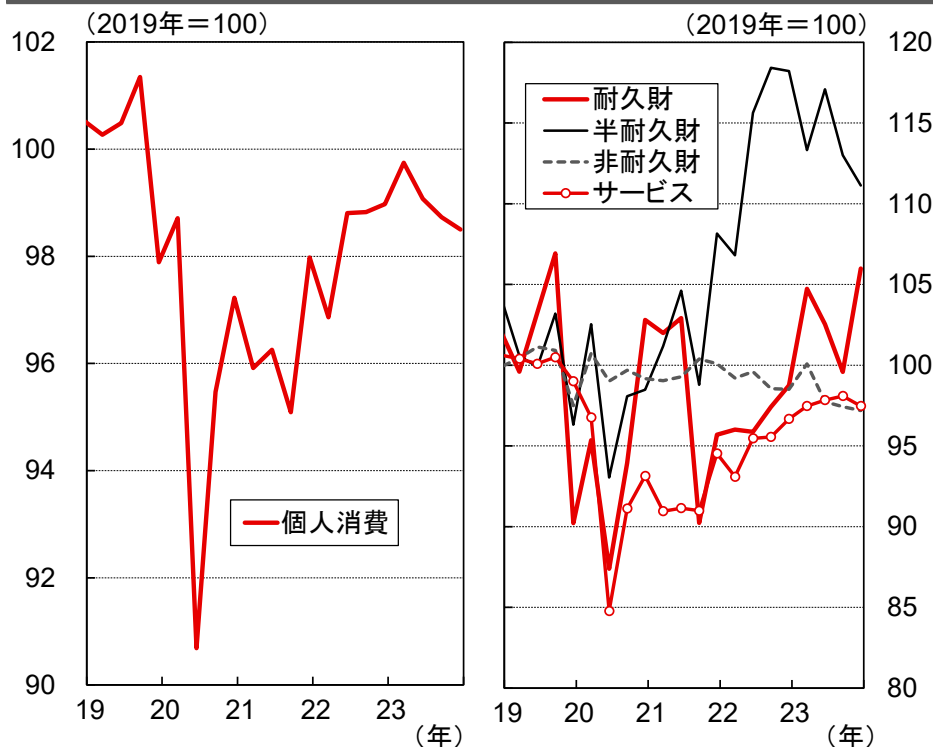
(注)カッコ内は、実質GDPの前期比年率伸び率に対する寄与度。

(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 内需項目

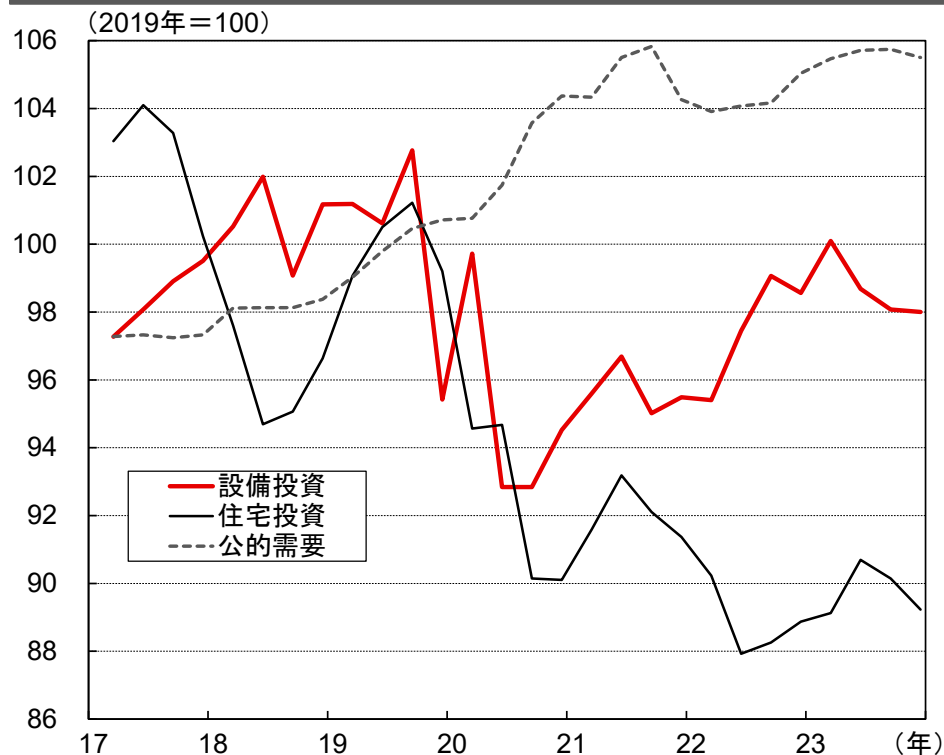
- 個人消費は前期比年率▲0.9%と3四半期連続で減少。暖冬により衣服(『半耐久財』)への需要が低下したとみられるほか、物価高が消費全体の重石となる状況が続いている。
- 設備投資も同▲0.3%と3四半期連続で減少。日銀短観12月調査では企業は依然高い設備投資意欲を示しているものの、海外経済の減速(懸念)や投資財価格の上昇が投資を先送りさせたことに加えて、人手不足が建築・構築物投資の回復ペースを鈍らせている可能性がある。
- 住宅投資は同▲4.0%と2四半期連続の減少。住宅価格高騰により、低迷が続いている。
- 公的需要は同▲0.9%と7四半期ぶりの減少。公共投資は2四半期連続で減少。

実質個人消費、財・サービス別実質個人消費の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

その他の内需項目の推移

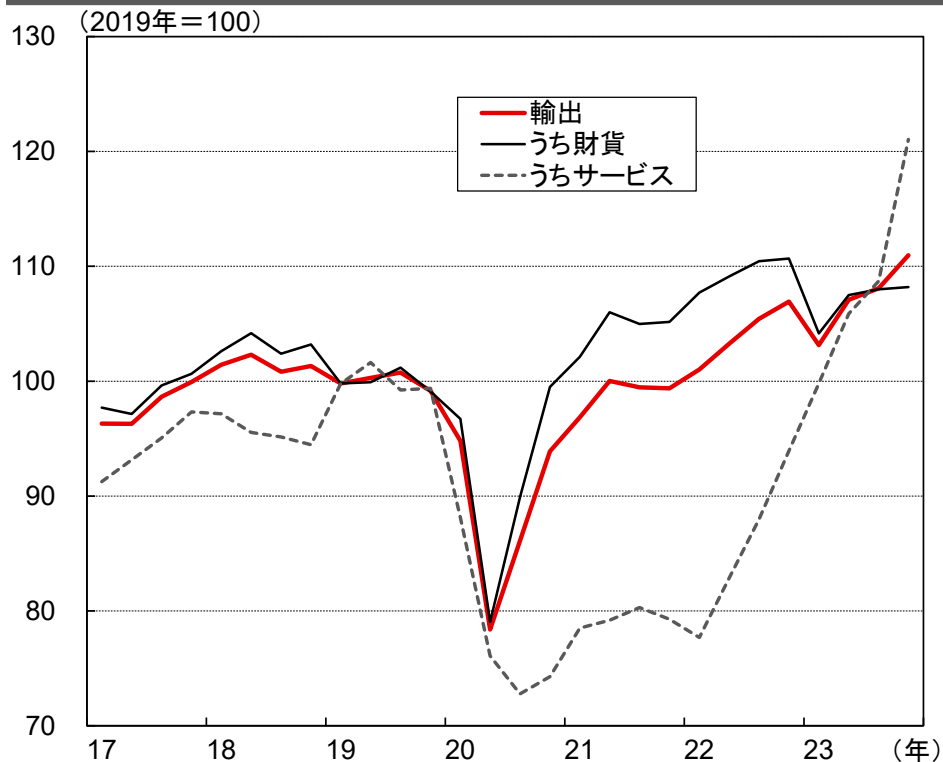


(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 外需項目

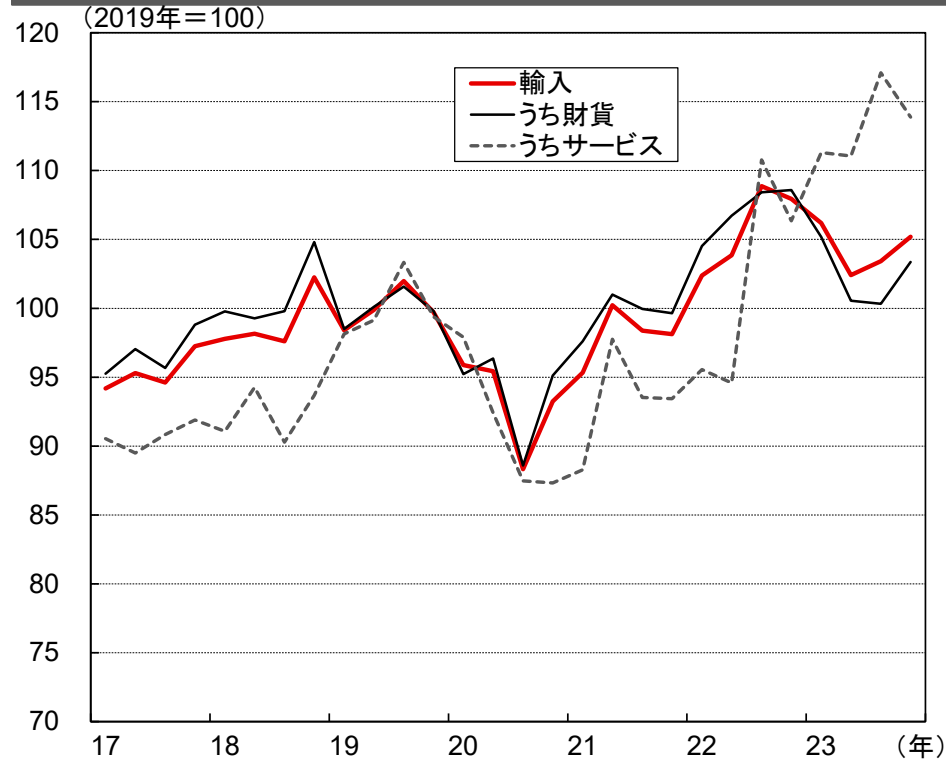
- 輸出は前期比年率+11.0%と3四半期連続で増加。サービス輸出が産業財産権等使用料の受取により一時的に大きく押し上げられたとみられる。
- 輸入は同+7.0%と2四半期連続で増加。サービス輸入は減少に転じた一方、財輸入が増加に転じた。
- 結果として、純輸出(輸出-輸入)の寄与度は同+0.7%ポイントと2四半期ぶりの増加に転じた。

輸出(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

輸入(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1

照会先：矢吹 彩 e-mail:sai_yabuki@mufg.jp